

2009年6月25日

## **iPS細胞、5年後にもヒトへ応用 文科省、心筋梗塞治療など**

文部科学省は24日、再生医療の切り札とされる新型万能細胞(iPS細胞)をめぐり、早ければ5年後にも心筋梗塞(こうそく)や目の病気などの治療で応用研究が始まるとの調査結果を発表した。患者への応用に時間がかかるとされたiPS細胞による、治療見通しが示されたのは初めて。

ヒトのiPS細胞は2007年に京都大学の山中伸弥教授が世界で初めて作り、様々な病気の治療に応用が期待される。文科省は再生医療や生命科学の研究者ら30人に聞き取り調査を実施。iPS細胞に関し、患者に応用して安全性を確かめる「臨床研究」が始まる時期を予測してもらった。

＝日経新聞＝